

# 主婦ランナー

# 西沢 麻美さん

にしざわ あさみ

今年二月に結婚、「小」「主婦ランナー」として「尾」から「西沢」に姓が新たなスタートを切った。三月、六年間た。「結婚してもトップレベルで競えることを示すなど頭角を現した。アスリートクラブ」(埼玉)に所属する。結婚後、小学生のころは剣道をや水泳を習ったが、「体が小さくて芽が出ず」、

同市東部中で消極的に陸上を選んだ。諏訪清陵高から早大へ進んだ後、関東インカレ一万円で優勝した。一月に出場した大阪国際女子マラソンは、八月の世界選手権の代表選考も兼ねた大事なレースだった。部内には既婚者が

ある埼玉県の和光、戸田両市を練習拠点に和光アスリートクラブを設立。失業保険を受ける生活。自分中心の毎日だっただけに、家事と練習の両立に最初の三方月は苦しんだ。

「走ることは苦しんでいる時間の方がずっと長い。でも、ちょっとした記録更新できた時の達成感がたまらない」。その楽しさを少しでも長く味わいたいと思う。

競技を続ける環境が整っておらず、引退の可能性も考えていた。結果は二時間三十四分五十秒の十立。自己ベストに二分以上及ばない不本意なものであった。

「心労から集中力を欠いていた」という。

練習をサポートしてくれたり、家事を分担してくれたら、夫の理解があるからこそ、現役を続けていられる。そう思うと気が引き締まる一方、「一人じゃない」という心の安定が、走りの落ち着きにもつながってきた。

大会後の会社との面接で、スタートツでは家庭と競技の両立は難しいと感じ、退社を決意した。

「一人じゃない」という心の安定が、走りの落ち着きにもつながってきた。

練習をサポーターとして初マラソンは、九月の北海道マラソンを選んだ。二時間三十分を切ることを目標に、トレーニングを積んでいる。

同じ年の夫、洋務さん(岡谷市出身)も現役のランナー。東海大三高、東海大で活躍し、現在はヤクルトの中心選手だ。「続けていいよ」と、快く受け入れてくれた。

「走ることは苦しんでいる時間の方がずっと長い。でも、ちょっとした記録更新できた時の達成感がたまらない」。その楽しさを少しでも長く味わいたいと思う。

加えて今は、結婚後も競技を続ける女性トップランナーが増えることも願って走る。十一月の県縦断駅伝に夫婦で出場するの夢だ。

「最近はお産後に復帰する選手もいる。結婚イコール引退、の雰囲気を変えていきたい」。上野敬裕さん(右)の指導を受けながら練習を積む=埼玉県戸田市

一方、上野さんが四月、自由に使える競技施設やランニングコースが

午前五時半の早朝練習



「最近はお産後に復帰する選手もいる。結婚イコール引退、の雰囲気を変えていきたい」。上野敬裕さん(右)の指導を受けながら練習を積む=埼玉県戸田市

## 新 ひと しいなの人

首都圏から 121

人、選手二人の小さなチーム。スポンサーはなく、自費での厳しい運営だが、現役続行の受け皿ができた。

主婦となった今も練習量は実業団時代とほぼ同じだが、生活の軸足はあくまで家庭に置く。

午前五時半の早朝練習